(第三種郵便物認可)　昭和六年十二月十日　(木曜日)　東京朝日新聞　第一萬六千三百八十五號　G　(三)

目標を失つた政治

第六十議會を二週間の目の前に見ながら、政界の空氣は依然沈滯して濁つたまゝで動かない。よどんだ空氣を入れ替へることは出來ないまでも、少くも動かすことだけは出來さうだつたかの解散問題も、遂には沈默した形になつて、無氣味にして不快なる空氣は增しはしても減しはしない。それは政府なり民政黨なりの側のみではない。國民の政治的關心の外に出てしまつてゐる、無產政黨や國民同志會においても、議會たる第二黨である政友會の側においても、同じことである。

結局は政治がその目標を失つてしまつたのである。軍事のかゞやかしき光に、政治がその色を失ひ、その色合の空をなくしてしまつたとも見られるが、たゞそれだけではない。滿蒙問題にかゝげた非干涉主義と、國民輿論の壓迫と、軍備縮小と社會政策とによつて瘦せ衰へた經濟界が、その疲弊に悩りもあることを發露したと同時にその國力を失つて、ぬけがらの多數となつてしまつたのである。非常時と貧乏時とで集めた議會多數の議員によつて、三億の公債と、四千萬の增稅とを議決せしむることは、結果したる政策の實行を前提として成立つ政黨政治と議會政治とを、政黨內閣自身が否定するものではないか。

滿蒙問題に呼びかけたすべてが虛僞であり、あるひは客觀的情勢の變化によつて、正反對にでもなるものであるとするならば、經濟多數も無意味であり、政黨內閣も、政黨政治も、その根底からくつがへつてしまふのである。そこにおいてか政黨政治、ひいては議會政治の否認的政治思想が、然だい頭せんとするの氣勢を示してゐることの裏ひらきものがある。政黨擁護運動と、選擧肅正問題施行によつて、立憲らんとした議會政治の信用と、國民の政治的關心が、既に背き去らんとするの狀勢を示してゐるのである。

軍事のあとを慕せき切つて追ひかけてゐるのは外交ではないし、赤字に追ひかけられて、赤字のあとを埋めることだけに努力するのは財政ではない。議會を無事に通過するために、重要法案はださない。大がかりの臨時議會を作つて、民政黨の重大政策だと呼號した選擧法改正に關する法案も、勞働組合に關する法案も、提出することさへもせず、これを撤回しないだけの理由をなす國家重大時機に處するの緊張も議會に關はないといふのでは、そこに何の意味の政府があり、議會があり、政治があるのか。

たゞ政權維持を意味する現狀維持は、このまゝでは續け去らんとする政權を維持せんとする者も、實力では補へられない政權を獲得せんとする者との間の調和と同情に、國家の政治に對しては二の加ふるものもない。協力して何をしようとするのかが國民の前に、まづ明かにされることを必要とすると共に、國民がうみ果てた現狀を、更にそのまゝ維持してゆくのでは、現狀打破これを叫ぶするも、國民はこれに堪へられない。現狀維持の現狀維持ではなく、かゞ沈滯の現狀維持では、濁して無い腐りを、國民に示さなければならない。かつて原敬氏は政治は力だといつた。犬養氏はこれに對して、政治は正義だといつた。然るに今や政治は力でもなく正義でもない。現在の政局の沈でん狀態は、政治がその信用と自信とを失つて立ちすくんだ姿に過ぎぬ。現狀維持も、現狀打破も、國家的觀點、國政的觀點によつて片づかぬ所以がそこにある。

馬占山の據本

海倫の橫顏

生れて僅か廿年

【ハルビン特派員九日發】　滿洲の街海倫——馬のたい中に饅頭をピカピカ光らせてゐる海倫によくぞ一片の武器もなく乘込んだものだ、ハルビンの領事館で始めて笑ひが出たこつちも死物狂ひ、悲壯な顏付をしてゐたが、相手の海倫市民も驚異の眼を見せた馬占山軍參謀長劉翰は硬直して足許が狂つたほど無謀の訪問に度膽を抜かれたらしい、海倫は赤煉瓦の堂々たる歐風の街物、黒龍江軍の黒外たうは總べて煙の如き北滿の曠はどうしたわけか街とはとても認れてゐる、この街も曠かも九支里もあるので廣だけかと旅人は前食らはされる

海倫　の街は生れてから二十年位だといふ、新しい街だけに道路は支那街らしくなく廣いが四邊が饅のやうに水綿してゐる、石山を見ぐやうなぎこちなさた建物は清朝風の安つぽいもので、裝飾のためらしく日本の五重塔のやうないつものが商店の前にそびえてゐる、馬占山は本陣として街の建設に努力してゐるので、野原で生れてから僅か二十年の海倫が現在面積一里四方に人口五萬人を數へ、眞四角な交通路のよくとれた支那街である

自動　車といふものの存在を夢にも知らなかつたのだが、馬占山がチチハルから逃げて來た時十數台の自動車を徵發して乘込んだので、太陽が夜中に現れた驚異いた、この自動車のお蔭で敗殘の將馬占山が却てこの地方で成功を收げたといふのだから偉大な話である、わが軍の飛行機が市街の上を輕く四つ五つ廻つた時、敵軍が來たのだと一日中家の中に隱れて顏をださなかつたといふのも、もつともな話だらう、女の髮は街中どこにも見ると云ふが出來なかつた、現在居るとも云ふ人の六人暮し長男太一(二)はこの町の內外に五千人、武裝の(二)三女きく(二)五女うた(二)孫とも云ふ人の六人暮し長男太一(二)は饅侯で全く仕事が出來ずふらふらしてゐるので自分は納豆おでんの行商をして歩き三女きくが工場に勤むる月五圓位と長女そのの奉公先きからの仕送り月五圓でやつと生計をつないで居る(S方面委員)

その　信用と自信とを失つて立ちすくんだ姿に過ぎぬ。現狀維持も、現狀打破も、國家的觀點、國政的觀點によつて片づかぬ所以がそこにある。

日本男子水上新記錄

═══ 續 ═══ 昭和六年度の成績

日本水上競技聯盟競技水上水表發

日本水上競技聯盟では九日次の通り昭和六年度男子新記錄を公認發表した、その數三十六、昨年度の六十二に比すればその數においては劣つてゐるが記錄としての價値はいづれも世界水泳界を脅威する大記錄であり、明年のオリムピックにおける輝しい結果を約束するものである(×印は二十五米プール、○印は全部五十米プール、○印は日本記錄、對は日本對記錄、外人のものは日本國際記錄、他は全部日本記錄で同時に日本國際記錄である【◎印は世界記錄】

五〇米自由型

時間	姓名	會名	場所
○ 26秒4	宮本(早大)	早●會	神宮
1 00	米自由型	關	
59秒2	宮崎(濱名商遊協)	神宮	神宮
2 00	米自由型		
2分15秒4	横山(沼泳會)	神宮	同
2分16秒0	カリリ弟(米國)	日	米同
2分16秒2	ギルフラ(米國)	日	米同
2分16秒4	横山(沼泳會)	神	宮同
對2分16秒8	高石(日本チーム)	日	米同
5 00	米自由型		
6分22秒6	横山(日本チーム)	日	米同
6分22秒8	牧野(東部中等チーム)	西對東	中等抗 大阪築港
6分26秒8	牧野(見付中)	東西優勝校	同
8 00	米自由型		
◎10分16秒6	牧野(東部中等チーム)	西對東	中等抗 同
10分20秒6	牧野(見付中)	東部中等校	神宮
10分21秒4	牧野(見付中)	東西優勝校	大阪港

各宮家から スタンプ御買上げ

各方面委員の報告

各宮家におかせられては本紙の歳末同情週間の催しに際し、右週間御趣旨の御思召をもつて本月の御誕辰たる北白川宮家に本社賦を召され、昨年同樣「同情スタンプ」御買上の御沙汰を賜はつた秩父宮家、高松宮家、閑院宮家東伏見宮家、伏見宮家、山階宮家、賀陽宮家、久邇宮家、梨本宮家、朝香宮家、東久邇宮家、北白川宮家、竹田宮家、李王家

同情スタンプ　五千枚

御買上あらせらる

本社主催 同情週間百家族救濟

肺患者が働く

(第廿一ケース)　厩下下板橋二三七自轉車職山下雄乙助さん(三)は妻よね(三)との間に長男太郎(二)二男次雄(二)三男正三(二)四男力(二)長女さわ(二)この五人の子供と叔母わか(二)を抱へてゐるが何分六七年前から肺を患くして暫くは病身を振ひ起して自轉車修繕で仕事をしてゐたが去る十月頃る七十二歳の叔母さん五人の子供を眼の前にして雄乙助さんは高熱をおして友人の家から五十錢一圓借り歩いたがもうどうにもならない有樣である(N・T補導委員調査、所要月額三十圓)

廢疾者を抱へ納豆賣り

(第廿ニケース)　下谷區入谷町納豆行商伊藤たけ(三)は昨年夫に死なれ長男太一(二)長女その(二)三女きく(二)五女うた(二)孫とも云ふ人の六人暮し長男太一(二)は癈疾で全く仕事が出來ずふらふらしてゐるので自分は納豆おでんの行商をして歩き三女きくが工場に勤むる月五圓位と長女そのの奉公先きからの仕送り月五圓でやつと生計をつないで居る(S方面委員)

氣の毒な母娘

(第二十四ケース)　原下千住町仲町に石田つやさん(四)同次女よし子さん(二)といふ母娘二人の家族がある、父親は長い病氣の末二年前死亡、母親のつやも心臟病からこれも床について了つて今日まで全快の見込みはない、よし子さんは姉さんと二人娘ながらも力を合せて病める母親をはげまし働いてとにかく細々と生計を立てゐたが、姉もまた病床に倒れて了つた、妹のよし子さんは母と姉の藥の爲、食ふ爲に懸命に働き續けたがそのかひも無く姉さんは六月の病床にこれも死んで行つたよし子さんは病める母と相抱いて悲歎にくれたがお父さんの丈夫な頃同情週間等女學校を卒業した娘さんだけに勇氣をだして肯物屋を開いたが客がほとんどなく失敗に失敗を繰返してゐる(T・S補導員調査、所要月額金十五圓)

悲慘

(第二十)　王子町鬼島木(二)長女まつ(二)老夫婦はれながら不幸にもそれでも五郎次(二)次女くの仕送りはお代と五人家族がいて了つた、自用がきかしかば同(I・S補導員二圓)

藥代費に

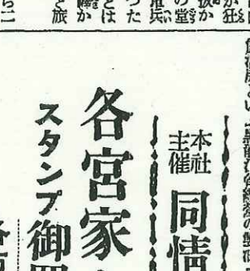
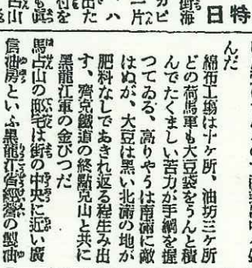
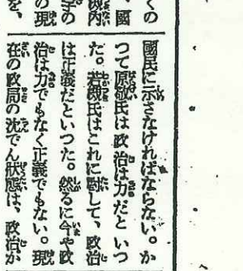
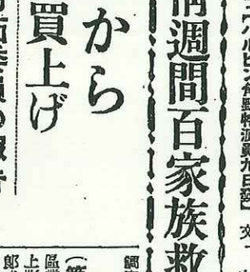
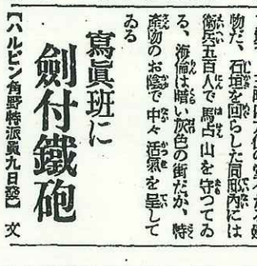
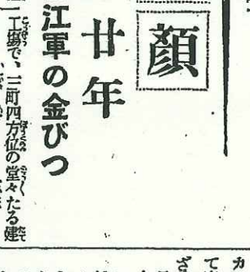
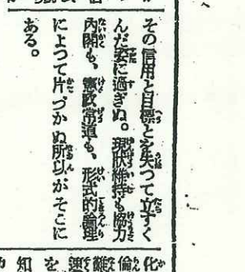
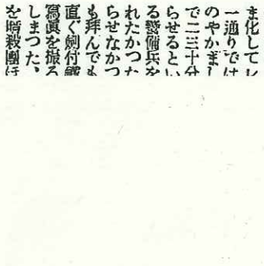
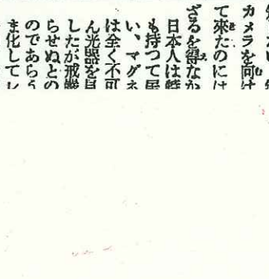
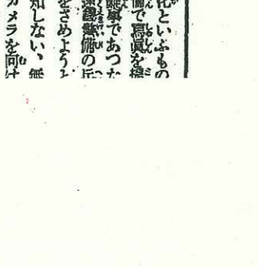
(第二十)　備市ケ谷上用これからといふ事が出來(二)との間に(二)次女くの(二)三女きく(二)五女うた(二)第三同さきの五人

病め

(第二十)　區業平橋山田上野まさ(二)郎さんは元氣の春からの不方なので立ちは家庭一切を本に一廣擧げが、それはさ婦組風船をはの收入を得來たが、去るかゝつて再びせく月三圓でにもならない導員調査、所

內職

(第二十)　西新井町本木うた(二)第三同さきの五人

寫眞班に 劍付鐵砲

【ハルビン角野特派員九日發】　文化といふものの偉で最も尊重を要する寫眞班の活動で、二町四方位の堂々たる建物だ、砲塔を回らした偽滿軍の兵營五百人で馬占山を守つてゐる、彼等は暗い灰色の衣だが、特殊物のお陰で中々華麗を呈してゐる